

◆ 平成 27 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 西川木楽会

代表者：代表 吉野 勲

URL : <http://www.nishikawa@kirakukai.org/>

1. 活動が必要とされた状況

日本では古くから、森林を保全しつつ大切に使う「木の文化」が育んできました。しかし近年では、人々の生活が森林から遠くなったり、真壁から大壁の家づくりに変化したことなどで、山の荒廃が進んでいます。



かつての民家や社寺建築のように、外から柱や梁が見える真壁づくりは、今の柱や梁が見えない大壁づくりと違い、木が呼吸し、維持管理やリフォームがしやすく長寿命なつくりです。こうした真壁の家づくりを見直すために、真壁づくりと空き家の調査とその造りの基本である伝統の木組みの良さを知るために西川材で木製ジャングルジムをつくりました。京都の清水寺の舞台と同じ木組みの木組のジャングルジムを子供達と一緒に組み立て→遊び→解体する体験をとおして、木の素晴らしさや、伝統の大工技術(木組み)、森林のこと、地球温暖化のことなどを、楽しみながら学ぶことができました。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

平成27年10月24日(土), 26日(日)に駿河台大学の駿輝祭で、飯能市街地の真壁と空き家調査のマップと真壁の写真、25、26年に助成いただきました「一本の木・オーディション」の作品の一部を周囲に展示し、西川材でつくった木製ジャングルジムをその中央で組み、

 び、解体の体験をしながら、2日間で4回のイベントを行いました。学年を中心に親子60名程と見学の方100名程の参加がありました。少しの手助けで、子どもは自力片付けまでできました。楽しく、回も参加したいと大好評でした。
また、コーナーではプロジェクターで清水寺の舞台を見ながら真壁のこと、西川材で地元の大工さんがつくる“木の家”や「木の香りがする町」のことなど話し合われました。



3. 活動の成果

市内にまだ真壁に家が数多く存在していること、ジャングルジムは大変好評でイベントや購入の打診がありました。また、「森と木の家」のリーフレットの作成で、住まい手・木材の担い手・つくり手・設計者の四者で納得のいく100年持つ真壁の家づくりをめざす“真壁と暮らし部会”の活動に弾みがきたいされています。

4. 今後に残された課題

今回の成果を今後に継続していくための課題として／①飯能市内の真壁と空き家の調査の継続。②木製ジャングルジムの今後の活用方法とその修繕。③今日の「買う家」から「一緒につくる家」の実現するための四者の取り組み。／があります。また、こうした活動をとおして、地元の資源を使い、地元で生きていくような仲間づくりが課題です。